

な

ご

み

つ

う

し

ん

発行日：平成 28 年 10 月 24 日(第 22 号)

発行：島田療育センターはちおうじ

「いのちの授業」を終えて、生徒は「いのち」や「障害」をどうとらえたのでしょうか？そんな感想を紹介します（その2）。

所長 小沢 浩

### 「いのちの授業」の感想文

・わたしは、いのちの授業の初めに読んでもらったみんなの作文を聞いて、なんかすごいなと思いました。わたしが、わたしのお母さんから生まれたことも奇跡で、今いるわたしの友達も、みんなのお母さんから生まれなかったら、あうことがなかったからだと思います。

たくさん奇跡がかさなって合うことができた人を大切に、なかよくこれからも楽しくいきたいです。つらいときがあっても、前を向いて生きたいです。



・私の母に宇宙人と言われて、ショックだったけど、その話を聞いた時には、やっぱり感動したって言ってた。

そして、今日のお話を聞いて、どのお母さんもそう思っているんだなあと思いました。

・最初の作文紹介では、とても感動しました。みんな産まれたときは、大変なことがたくさんあったんだと思ったし、それ以上に親は、もっと苦労していて、子どもが産まれたことを喜んでくれたんだということを改めて知ることができました。世の中には、たくさんの障害者がいるけど、その人たちは、明るくて頑張っていること、その笑顔を見て、「わたしも泣いてばかりいられない」と、その親も頑張っていることを知ることができました。わたしは、それを知って「この人は、わたしよりも強い人だな」と思いました。

この授業で命を大切にしようと思いました。

・私は、命の授業で、本当の幸せを考えました。障害を持っている人と障害を持っていない人では、幸せの考え方がちがうと思いました。障害者が7割の工場の話では、障害がない人より障害がある人の方が多くてとてもおどろきました。障害を持っている子のお母さんが泣いている時に笑ってお母さんを元気にしたのは感動しました。たくさんのお話を聞いて、そのすべてで感動したり、おどろいたりしました。幸せは、努力すればみんなに来ると思いました。私は、家族に育てられて支えられてきたことを作文に書いて改めて実感しました。これからは感謝して命を大切にしていきたいと思いました。

・私は、障害者の方はないものばかりではないというお話が心に残りました。

どんな人でもできることがあるんだと思いました。どんな命でも大切にしていきたいです。



・ぼくは、いのちの授業をやって、いつもは「ババア」とか言っているし、たくさん怒るからきらいなお母さんだけど、産んでくれる時はとてもつらい思いをしていて、よく怒るのもぼくが良い子に育ててほしいという愛情表現なんだなと思って、少しだけもっと好きになりました。



・ぼくは生まれて1カ月くらいで重い病にかかって、死ぬかもしれないと先生に言われていたそうだけど手術をしてなおって生きられるようになったと言っていたので自分をもっと大切にしようと思いました。

・男だから、にんしんというのはよく分からないけど、あかちゃんていいものだと思った。

「奇跡がくれた宝物ーいのちの授業ー」  
(クリエイツかもがわ) より

